

改善報告書

令和7年7月1日

1. 大学名：東京成徳大学

2. 認証評価実施年度：令和4年度

3. 「改善を要する点」の内容

基準項目：2－1

○国際学部国際学科は、収容定員充足率が0.7倍未満であり、入学者の確保について改善を要する。

4. 改善状況及び結果

基準項目2－1について

国際学部国際学科は、多様な価値観を理解し、幅広い知識とコミュニケーションスキルを活かして課題発見・解決を行い、新しい価値を創造できるグローバル人材を育成することを目的として、平成31（2019）年4月に開設した。早期に語学力を身に付けるため、1年次後期から1年間の留学を必須とするカリキュラムを導入している。

開設2年目の令和2（2020）年度の収容定員充足率は0.79倍であったが、新型コロナウイルス感染症の影響により、受審年度の令和4（2022）年度には0.65倍にまで低下した。この状況を受けて、高校訪問やオープンキャンパスの実施方法の工夫など広報活動の強化を図るとともに、留学の再開により翌年度の入学者数は回復傾向となった。しかしながら、円安や物価高騰に伴う留学費用の増加が学生・保護者の経済的負担となり、直近2年度においては再び漸減傾向となっており、改善には至っていない。

このような状況を踏まえ、令和8（2026）年度入学者からは、留学の開始時期を1年次後期から2年次前期へ、留学期間を1年から半年間にそれぞれ変更する。これに伴い、カリキュラムの再編成を行い、教育効果の向上と入学者数の安定的な確保を図り、今後も社会情勢や学生ニーズを踏まえた教育体制の構築に努め、持続的な改善を進めていく。

5. エビデンス（根拠資料）一覧

基準項目2－1の資料

・【様式】学部、学科別 在籍者数（改善報告書用）